

令和7年6月26日(水)
内子分庁3階大会議室

内子町部活動地域移行推進連絡協議会(第2回)会議録

内子町教育委員会

挨拶 皆様、夜分遅くお集まりいただきありがとうございます。マスコミの関心も高まっているのか、部活動地域移行について取り扱っていただく機会がありました。改革の途中ではありますが、ここまで来られたのは、皆様のおかげです。本日は、地域クラブの骨子について説明させていただきます。まだ詰め切れていない部分もあります。皆様のご質問に答えられないこともあるかもしれませんが、その時は次回の課題とさせていただきます。今回も広域スポーツセンターから2名と県保健体育課から2名の方が来ていただいています。積極的なご意見をいただきながら協議を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

◆協議1 前回の確認(会議録)

事務局 事務局が前回の会議録をもとに、第1回の協議1～協議4について説明。協議1では、「地域展開」のとらえ方は、学校・地域とも連携しながら「地域移行」を進める。内子町では「地域移行」という言葉を使用しながら「展開」の意味も含めている。協議2において、年間計画に基づいて、11月頃にはある程度の方向性を決める。協議3の拠点校部活動再編について、本日協議2で確認する。協議4では、指導者の質の確保について話題となった。責任はクラブにあり、種目ごとのクラブは単体ではなく内子町全体で行う。県の研修の取組や、国の実証事業があるということを確認した。指導者は大きな課題で状況を見て進めていく。

◆協議2 拠点校部活動について

事務局 事務局が、総体までの入部状況、総体後の新編成案について説明。

委員 ソフトテニス部の練習場所については、この場で取り決めるというよりは、関係者で話し合っ決めてほしい。内子中のテニスコートは、表と元プール裏と2か所に分かれており、4面といっても1人で見ることはできない。見ていないところで怪我をすることも考えられる。このような現状から男子が内子に来て難しいのではということがある。様々な事情があるため、どうすれば安全にできるか、検討したい。

事務局 相談しながら進めたい。外部指導者も探したい。

委員 二つの部活動が一つになったということは、顧問が1人余っているのではないのか。

- 委員 もともと人員不足で、やりくりしながらの現状があり難しい面もある。
- 委員長 女子は五十崎で練習するとして、拠点校は内子となるのか。
- 事務局 顧問の問題で拠点校は内子になっている。
- 委員 内子高校の先生と話す機会があった。ソフトテニスの練習場所について、合同練習など中高連携できるところがあれば、協力したいとのこと。運動公園での練習も可能になるかもしれない。
- 委員 平日に運動公園という意見もあったが、平日は高校がおさえているという現状があった。高等学校、五十崎中学校とも相談しながら進めていきたい。
- 委員長 内子高校の魅力化も含め、連携は大事なので、うまく進めていけるとよい。

◆協議3 地域クラブ活動について（ミッションについて）

- 事務局 ミッションについて、資料により説明した。地域クラブ活動のミッション<3本の重要な柱>について説明。この3つの柱をスローガン化してはという意見があり、原案では令和7年度内に、子供達を対象として募集する。
- 委員長 ミッションの3本の柱をスローガン化するという。イメージがわからないがどうということか。
- 委員 部活動地域移行に対して、不安をおぼえている方もいる。分かりやすいメッセージを地域の方にも知ってほしい。訴えかけるようなものを小学校高学年の方から出していただいてメッセージとして伝えたい。
- 委員長 意味を分かりやすく伝わりやすくすることによってよい。
- 委員 募集対象を学生にすることについて、そうすると言葉がどうしてもつたなくなる。募集は大人まで範囲を広げて、審査を子どもにしてはどうか。
- 委員 それも含めて小中学生にしてもらいたいと考えている。募集対象は考える必要があるかもしれない。
- 委員長 審査員を子供にしてもらおうという方がよいと感じる。
- 委員 3本の柱をキャッチフレーズにするということ。今検討しているのは中身のことで、これは違う手間をとられるということではないか。
- 委員長 子供たちに伝えるために、スローガンを作って分かりやすくするイメージか。
- 事務局 3本の柱は、この言葉では分かりにくいところがある。キャッチフレーズにすることで、分かりやすく持続的にみんなで取り組もうというのがある。地域移行という次の課題として持続的にということがあると思う。
- 委員長 パンフレットを作って分かりやすくすることも想定される。そういった意味合いでよい。
- 委員 よい。
- 委員 外部指導者を募集するときも、必ずこの言葉が入っているというような、県の資料にみきゃんが入っているような統一したイメージかと思う。

◆協議3 地域クラブ活動について（運営・協力団体について）

事務局 資料に基づいて、一般社団法人とNPO法人の違いについて説明。

委員長 運営団体を法人化するという事。その場合、一般社団法人でどうかとの提案があった。

委員 「寄付の受けやすさ」という話があったが、そういう寄付があるということか。あれば教えてほしい。

事務局 具体的にはない。町内の企業からというのが現実的。

委員長 将来運用していくのに、地元企業から受けることがあるかもということ。

委員 町からの補助を受けやすいのはどちらというのはあるのか。

事務局 どちらとも大丈夫。

委員 一般社団法人がいいと思う。NPO法人は立ち上げたことがあるが、とても大変だった。やめる時も大変だった。一般のほうが自由。寄付に関しては、一般でももらえると思う。税制度対応の勉強をしないといけないと思う。

委員長 一般がいいのではと思う。寄付があるにしても。今日はまだ決めなくてよい。

事務局 今後の見通しが明らかになった段階でよい。

委員長 続いて、組織図について協議を進める。

事務局 資料をもとに、組織図について説明。これまで、委員から一般的などこかの団体にあずけられるのかという不安の声があった。内子町教育委員会が委託した団体で、諮問機関が監視するという仕組みで信用度を上げたい。理事者も位置付けて責任をとれる体制、実務は事務局が担う。クラブマネージャーの位置付けはどういう方が入ってもらえるか難しさはある。サポートスタッフ的なクラブの中で支えてくれる立場の人を増やして組織を作りたい。

委員長 これは来年度の総体が終わった後ということ。その時の子どもの部活動と地域クラブ団体とはどういう関係になるのか。

事務局 地域クラブは、学校部活動の受け皿となることができる。できるところから受け皿として休日は地域クラブができる。それによって休日の先生の負担を減らすことができる。まずそこを目的とする。大会に参加できるかとなると高いハードルがある種目もあり、部活動によっては部を維持しないといけないものもある。平日は、曜日によって部活動とクラブを分担するという事も想定している。現時点で、全てを移行することの難しさを感じている。

委員 顧問は先生でないといけない場合を知りたい。外部指導者などがいた場合、認められる可能性もあるかもしれない。

事務局 中体連が大会の出場を認める判断について問い合わせた。クラブと部活動の併用型の場合は部活動で大会参加できるか聞くと、都合がいいと捉えられた場合は参加が難しい場合もあるという回答だった。位置付けを明確にしておかないと中体連側も判断が難しいと思われる。

委員 部活動的なところも残すということか。

- 事務局 来年度も残さないといけないものもあるのではないかと考えている。
- 委員 学校はどういう風に関わりがあるのか。
- 事務局 協力団体としての学校との協力体制の在り方についてまだまだ詰めていかなければならない部分がある。
- 委員長 先生が全く関与せずに運用できるか分からない。最終的にクラブになっても欠席連絡を学校にしてもらう必要が出てくるのではないか。
- 事務局 そういう場面も出てくると考えている。家庭からアプリなどで連絡できる方法も考えていきたい。
- 委員長 送迎の問題もある。
- 委員 熊本の視察では、教員と指導者が時間で切り替えていた。情報を共有する、流すという難しさはある。県の方にお伺いしたい。現在、例えば、五十崎中サッカー一部の監督・引率などを内子中学校の教員が行うようなことが中体連の規則でできない。愛媛県としてどのような緩和を考えられているか。このような問題が、内子町が進めている拠点校の足かせとなっている面がある。それがクリアできればクラブに大会参加が認められるようになってくる。そのあたりを後押し・緩和する施策を希望したい。難しいと思うが。
- オブザーバー それについては現状として、明確な回答ができない。中体連はクラブチームの監督に教員が関わる際に、教員が兼職兼業として監督する方法となっている。完全に解決にはならない。兼職兼業についても、校長が判断する難しさもある。少しでも善処できるように考えていきたい。皆様からのアイデアもいただきたい。
- 委員 来年の夏までに答えは出るのか。
- オブザーバー すぐに答えが出ることはない。
- 委員 五十崎中サッカー部を内子中学校の教員が監督・引率できないのであれば、五十崎中を内子中に名前を変更すればいいということになる。
- 委員 吹奏楽でもそう。合同はだめ、クラブの名前で登録すればよいということがあ
る。お金の問題はあと思うが、言葉だけでよいのかという疑問はある。
- 委員長 先生方の働き方改革もある。兼職兼業は勤務時間も影響するのではないか。
- オブザーバー 週 15 時間というのがある。県でもどこまでが可能な範囲なのか、国の方にも確認を進めているところ。
- 委員長 この問題で今までも議論が止まってしまうところがある。
- 事務局 国の方も、全国的にも統一された方向性を見出そうという動きがあり、12 月には再度ガイドラインが改訂される予定である。受益者負担の考え方なども示されるようなので、少しずつ整理できればと思っている。今後移行を進める上で、制度ができていない影響による子供の不利益にならないようにしたい。
- 委員 内子町は地域クラブを立ち上げようとやっている。中体連にもこの形で大会に出られるか事前に確認する必要がある。バスケット以外の種目は参加できると思う。バスケットも内子町の方法であれば認めてもらえる可能性もある。事前に確認してほしい。

委員長 次回は一つ一つの部活動がどうなのか、どういう形だったら参加できるのか情報提供を求めたいと思う。

委員 理事会について、この組織でいくと、お飾りになることはないか。

事務局 理事は、例えば今回ソフトボール部の部員が少なくなったということがあると思うが、その時の活動停止・存続の決定を行う。そのため、部活動のことをよく知っている学校関係の方をお願いしたい。部活の方針を定めることが仕事。

委員 P T A副会長、町P連は毎年交代する。あて職だけというのはこわい。

委員長 あて職を想定している訳ではないのでは。

事務局 P T Aという立場も位置付けたい。理事会で決定できないときは諮問機関にも相談して決めることが可能となる。

委員 理事会は何人か。

事務局 3人。

委員 少ないのではないかと10人程度必要では。

委員 統括マネージャーは理事会に入らないのか。

事務局 統括マネージャーは決められたことに沿って、職務を行う。

委員 意見は反映されないのか。

事務局 理事会で全て進めるというより、現場の意見も取り入れながらになると思う。

委員 事務局で出た意見として、理事会は特に議論もなく通るのではないかと。

委員 理事会は増やしていいと思う。

委員長 学校関係、P T A関係、ふさわしい人物でいきたい。この人だったら部活動のこと、子供のことも分かっているという人に入ってもらいたいということと理解している。

事務局 そういう人を見つけないか。

委員 実際に活動している人の代表が集まった会があって、その中で理事になっていくように、全体との関連があるとよいと思う。下から積みあがって理事会があるような。

事務局 熊本では、理事はマネージャー兼務という例もあった。それも含めて体制を作りたい。

委員長 そういった細かいところを、まだまだ詰めなければならない。

アドバイザー 組織に関して、法人格の話があった。以前はNPOしかなく、総合型クラブはNPO法人として進んできたが、法人の改革があり、一般社団法人が選べるようになった。一般社団法人は、ハードルが低くなるため、税金の優遇は低くなるものの多くは一般社団法人を選んでいる。人数は、中身や活動に応じて決まる。理事会について意見があったと思うが、各クラブの代表が理事に入ると全部で15クラブあるので15人と多い。運営委員会を作って代表何人か理事会に入るといったやり方もある。子供との関わり方について、先日新潟スポーツ協会きらら総合型スポーツクラブの方が来られて、そこでは融合型部活動という方式を紹介してもらった。指導者がいないところを段階的に移行する。コミュニケーションをとりながら枠組

みを残す。このあたりが参考になるのではないかと思う。

委員長 次回、そのあたりをしっかりと詰めて説明する必要がある。

◆協議4 その他（プレイベントについて）

事務局 資料をもとに、「部活動地域移行を考えるシンポジウム開催要項」説明。

委員 テーマ(1)今、地域移行はどう進んでいるか？について、まだ地域移行していない。どういう話が出るか。拠点校部活の話しか出ないのではないかと。

事務局 地域移行に向けて変化していることについて、どういう受け止めか、どう考えているのかについて知りたい。

委員 この時期にやって大丈夫か。11月にまとめる予定で進めている。10月ではこの協議自体まとまっていない。その先の地域移行は分からない。收拾がつかなくなるのでは。11月の方で町P連教育懇談会をする。ここにいない一般の方は分からないのではないかと

委員長 この時期にシンポジウムをするのはどうか。

事務局 当初は8月の予定だった。多くの人に自分事として考える時間を作りたいということ。8月は予定が合わなかったが、新人戦後の10月に行いたいと思う。

委員長 シンポジウムをやるとなるとビジョンがないと難しいのではないかと。こういうこと考えていないと空中分解するシンポジウムにならないか心配。

事務局 いろいろな意見が出ることは歓迎する。将来的に考えるべきことが見えてくるかもしれない。

委員 11月に決まっていない。でも、全く分からなかったことが少し分かる機会になればよい。しっかりした話をしてもらいたい。10月にするという。11月は懇談会もある。分からない人にとということであれば…。

委員長 やってもらいますか

委員 先ほどの取組をしている新潟の人を呼ぶとかはどうか。

事務局 人を集めるために、名前の知られた人を呼ぶことも考えた。内子町で当事者の意見を尊重する方向性で現在は考えている。

委員 シンポジウムで外部指導者も求めていくのか。

事務局 そういった広がりも期待している。多くの人に関わってもらいたい。

委員長 事務局としてはやりたいようである。

事務局 次回7月の協議会では、関連団体との連携の在り方、クラブごとの大会参加資格について、クラブ活動時間について協議したい。

挨拶 お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございました。地域クラブに向けて問題解決しながら進めていきたいと思う。生徒も少なくなっていく。地域クラブに移行してよかったといってもらえるようにしたい。今後ともよろしく願いいたします。